

小学校 第2学年 国語科 学習指導案

北海道釧路市立中央小学校
教諭 長屋 樹廣

単元名

何が、どのようにかわったかに気をつけて読み、お話をしようかしよう『アレクサンダとぜんまいねずみ』(16時間)

単元のねらい

文章を読んで感じたことやわかったことを共有することができる。

本時のねらい

場面の様子に着目して、登場人物の行動の変化について具体的に想像することができる。(第3時)

指導時期

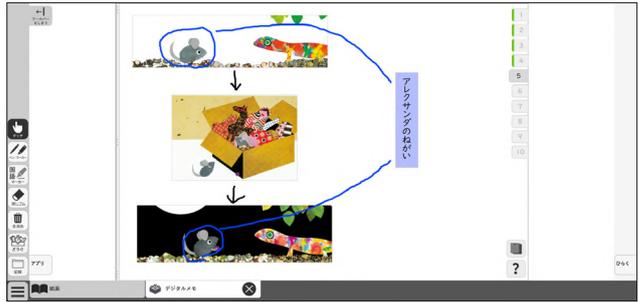
3月

指導者用デジタル教科書(教材)活用の意図・目的

「指導者用デジタル教科書(教材)」を活用することで、学級全体で情報を視覚化し、共有を図ることができるため、今まで以上に全員参加の授業に近づいていくものだと考える。紙の教科書では、学習者の発言に、「○ページの○行め」という発言があったときに、必ずしもその情報を目で追えていない学習者がいて困ったことがある。しかし、「指導者用デジタル教科書(教材)」では、学習者がラインを引いて「ここを見てください。」と示しながら発言することが可能となる。また、本文の内容について想像を広げていくような展開をするときにも、「この部分から～のように考えました。」という発言の価値が高まるものと思われる。今回の『アレクサンダとぜんまいねずみ』は、2年生にとって分量が多いからこそ、「ここからこのように考えた。」という本文の叙述をもとにした交流が重要なのである。学習者の考えを形成していくという授業展開において、「指導者用デジタル教科書(教材)」を使用し本文の叙述を引用しながら話し合うことは、論点の焦点化につながる。さらに、その論点を視覚化・共有化していくことで、全員参加の授業が可能になるなどの効果が期待できる。

本時(第3時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 ●本時の課題を知る。 ●前時の学び(学習計画など)を振り返り、本時の学び(登場人物の行動の変化)について確認する。 	 <p>■指導者用</p> <p>「朗読」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前時を想起させるために、p.132 から p.139 までを、「朗読」を活用して読む。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入		
展開	<p>p.132・133の場面と、p.136・137の場面の間に何があったのかを確認する。</p> <p>①：アレクサンダとウイリーが変わったところがありますか。</p> <p>②：アレクサンダのねがいが変わったね。</p> <p>「アレクサンダ」のねがいがどう変わっているのかを確認する。</p> <p>③：「ぜんまいねずみになりたい」というものから、「ウイリーを、ぼくみたいなねずみにかえてくれる?」というものになっている。</p> <p>「アレクサンダ」のねがいが変わった理由について交流する。</p> <p>④個人思考をする。</p> <p>⑤ペアやグループで思考する。</p> <p>⑥全体交流する。</p> <p>⑦：ごみ箱行きになってしまうウイリーがかわいそうだから、助けたいし、ウイリーがいなくなるとさびしくなってしまうからだよ。</p> <p>⑧：ねずみは人間に嫌われるかもしれないけど、ねずみには足がある。自由に動けて捨てられないからだね。</p> <p>⑨：ぜんまいねずみは、自分で動けないから好きな所へ行けないけど、ねずみは自分で動くことができるので、好きな所へ行くことができるからだよ。</p>	<p>「デジタルメモ」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「デジタルメモ」のワークに「さし絵」を抜き出して並べる。 ●児童の発言を整理する。  <p>「ペン・マーカー」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はじめと終わりで、変わっているところに「ペン・マーカー」でラインを引き、共有する。  
まとめ	<p>本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ノートに本時の振り返りを記入する。 ●振り返りを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「さし絵」や本文のサイドラインを確認しながら、振り返りの内容を交流する。

指導者用デジタル教科書（教材）を活用したことで得られた効果

「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用することで、「何が、どのように変わったか」を読み取る時に、本文の叙述や挿絵をつなげて読むことが可能になり、「場面の様子に着目して、登場人物の行動の変化について具体的に想像することができる」という本時のねらいを達成することにつながる。また、「文章を読んで感じたことやわかったことを共有することができる」という単元のねらいを達成するための前提を整えることもできる。次時以降の「文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつ」につなげることができる。

学習者にとっても、「指導者用デジタル教科書（教材）」により、発言が全員の共通理解として共有されやすい。例えば、従来の授業では、「○ページの○行めの～では……」という説明があったときに、そのペースについてくるのが難しい学習者が存在した。『アレクサンダとぜんまいねずみ』は、2年生にとって分量が多いので、「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用した支援は、たいへん効果的である。例えば本時においては、「画面の○ページの○行めの～では……」という説明で学習者が考えた根拠を共有し、共通理解を図ることができる。また、単元の学習を進めていくうえでも、「前の時間は、ここに注目した発言があったよね。」「○○さんは、△△のさし絵から～を考えていたよね。」など、単元レベルでのつながりもより密接に学習を進めていくことが可能となるのではないかと考える。